

国際文化交流学科「文化ウィーク」2大イベント報告

外国語学部 国際文化交流学科

3年 清水 菜月
2年 大久保 奨真
2年 丸山 汐理

文化ウィークとは、外国語学部各学科がそれぞれの学科の特色を活かし、学生が企画・運営するイベントです。国際文化交流学科の文化ウィーク実行委員会では年に2度、イベントを主催・運営しています。10月には様々な国の文化や今まで触れることのなかった慣習等を知ってもらい、興味を持ってもらえるよう「異文化交流フェスタ」を開催しています。11月には第二外国語を必修で履修していることを活かし、「言語の祭典」を16号館セレストホールにて行っています。

どちらのイベントも留学生、学科教員にもお力添えを頂き、2019年度も無事、開催することができました。

1 異文化フェスタ

2019年10月24日(木)に開催された異文化フェスタは第8回目を迎えました。今年は「ホラー」をテーマに、本学科のステファン・ブッヘンベンゲル

ル先生による西洋ホラーの講演や、4人の留学生による自国における有名なホラーについてのプレゼンテーションをしていただきました。

ブッヘンベルグ先生の講演では、1972年に制作され、元祖ホラーと言われるドイツの映画『Nosferatu』についてお話いただきました。無声映画故に醸し出される吸血鬼の不気味さに会場の雰囲気も吞まれていました。

留学生によるプレゼンテーションでは、スリランカ、韓国、ベトナム、台湾、以上4つの国のホラーについてそれぞれパワーポイントと流暢な日本語を用い



て披露してくれました。様々な国のホラーは、その国の文化や歴史が起因していることや日本に近いところがあることを知ることができ、会場は一層賑わっていました。

異文化フェスタでは、併設されるCross

Cultural Cafeにてフエアトレードの商品を紹介しつつ、世界各国のお菓子やドリンク、そしてシフォンに作って頂いた食事を提供する場も設けており、大変人気があります。これらの食事と共に、来場して下さった皆さんが話に花を咲かせていました。また、今年はハロウィーンと時期が重なっていたため、装飾もハロウィーンを意識したものにすると、細部までこだわっていました。



2 言語の祭典

11月28日(木)に開催された言語の祭典は、今年で第8回目を迎えました。4つの発表チームに加え、過去の言語の祭典において受賞経験のあるゲストお二人、またエキシビジョンとして留学

このように、異文化フェスタでは毎年違ったテーマで、日本と各国との違いを学ぶことができます。異文化に関心をもって来場してくださった方々が、国籍に関係なく会話を楽しめる場所になっていたならば、これほど嬉しいことはありません。勿論、来年以降も楽しいテーマで開催していきますので是非、足を運んでみてください。



ドイツ語2年生「ドイツ語仮面たちのラブソニー」



ロシア語1年生「ロシア語版Let It Go 歌唱」

生が発表を行い、会場は大いに盛り上がりました。発表内容としては、各言語による歌唱やカートゥーンアニメの吹き替え、留学経験談など様々な形式のものが見られました。どの団体も構成を一から考え、たくさんさんの練習を重ねて本番に臨みました。そして、最優秀賞として選ばれたドイツ語2年生による「ドイツ語仮面たちのラブソニー」では、仮面をつけた色々なキャラクターたちが登場し、観客を楽しませてくれました。このような発表の場は、言語を学ぶ私たちに刺激をもたらし、また自分が知らない言語にも触れられる良い機会となっています。私たち文化ウィーク実行委員会は、これからもより多くの人に言語学習の喜びを感じてもらえるような企画を考えていきたいです。



発表団体、会場の皆さんと記念撮影

神奈川大学外国語学部国際文化交流学科

「文化ウィーク」イベント報告 http://www.ffl.kanagawa-u.ac.jp/news/2019/news_2019110501.html